



# Synthetic Test ワークシート

このセクションでは、次の点について説明します。

- [Synthetic Test ワークシート \(1 ページ\)](#)

## Synthetic Test ワークシート

模擬テストで使用するために Cisco Unified Communications Manager 内で作成する必要がある電話機の数、次のものによって決まります。

- 設定する模擬テストの数。
- 実行するテストのタイプ。

次の表は、必要な電話機の数を決定するためのワークシートです。表に記載されている情報を使用して、テストの回数を入力し、必要な電話機の総数を計算してください。

表 1: 模擬テストで必要となる電話数

テストの回数	テストのタイプ	テストに必要な電話の数	必要となる合計の電話数
	Phone Registration	1 (模擬電話)	
	Dial-Tone	1 (模擬電話)	
	実際の電話を使用した End-to-End Call	2 (模擬電話 1 および実際の電話 1)	
	模擬電話を使用した End-to-End Call	2 (模擬電話)	
	TFTP Download	0	
	Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以降の場合 HTTP ダウンロード	0	

テストの回数	テストのタイプ	テストに必要な電話の数	必要となる合計の電話数
	Emergency Call (On Site Alert Number なし)	2 (模擬電話)	
	Emergency Call (On Site Alert Number あり)	3 (模擬電話)	
	Message-Waiting Indicator	2 (模擬電話)	

各 Unified CM の電話機を設定する際は、次のワークシートを使用すると Cisco Prime Collaboration Assurance へのデータ入力が簡単になります。

表のダッシュは、MAC アドレス、宛先の電話の内線番号、または宛先の電話の Cisco Unified Communications Manager にデータが必要とされないことを示します。

表 2: Cisco Unified Communications Manager

Synthetic Test	MAC アドレス	宛先の電話の内線番号	宛先の電話の Cisco Unified Communications Manager
電話登録		-	-
ダイヤルトーン		-	-
エンドツーエンド コールの発信元電話機		-	-
エンドツーエンド コールの接続先電話機 (模擬電話機)			
エンドツーエンド コールの接続先電話機 (実際の電話機)	-		-
電話登録		-	-
ダイヤルトーン		-	-
エンドツーエンド コールの発信元電話機		-	-
エンドツーエンド コールの接続先電話機 (模擬電話機)			
エンドツーエンド コールの接続先電話機 (実際の電話機)	-		-
電話登録		-	-
ダイヤルトーン		-	-

エンドツーエンド コールの発信元電話機		-	-
エンドツーエンド コールの接続先電話機 (模擬電話機)			
エンドツーエンド コールの接続先電話機 (実際の電話機)	-		-

表 3 : Cisco Emergency Responder

パラメータ	名前または番号
<b>送信元</b>	
Cisco Unified Communications Manager	
MAC アドレス	
<b>送信先</b>	
緊急番号	
<b>Public Safety Answering Point</b>	
Cisco Unified Communications Manager	
MAC アドレス	
<b>On Site Alert</b>	
Cisco Unified Communications Manager	
MAC アドレス	

表 4 : Cisco Unity

パラメータ	名前または番号
<b>発信者</b>	
Cisco Unified Communications Manager	
MAC アドレス	
<b>受信者</b>	
Cisco Unified Communications Manager	
MAC アドレス	
電話の内線番号	

ボイスメール	
パスワード	